

2017年度 調査結果（2016年4月発行）

海外留学生のキャリア意識と就職活動状況

就職活動の時期が2年連続で変わり、今年は6月1日が企業の選考解禁日となる。海外の大学等に留学した場合、6月が卒業シーズンというケースが多いため、留学からの帰国者が不利にならないよう企業側に配慮が求められるなど、注目が集まっている。そんな中、ディスコでは日本国外（海外）の大学で学んでいる（学んだ）、正規留学生や交換・派遣留学生を対象に、職業観や就職活動の方法、留学経験への感想といった項目に加え、新スケジュールに対する見解を尋ねた。当事者ならではの率直な意見を紹介したい。また、比較可能なものに関しては国内学生（キャリアス就活・学生モニター）の調査データを引用しながら分析したい。

【主な調査内容】

1. 新スケジュールの認知度と意見	P 2
2. 就職したい理由	P 3
3. 日本国外での勤務希望と就職したい企業の種類	P 3
4. 志望業界	P 4
5. 志望職種	P 5
6. ベンチャー企業への関心	P 6
7. 企業研究をする上で知りたい情報	P 7
8. 就職先企業を選ぶ際に重視する点	P 8
9. 企業研究の情報源	P 9
10. 現在の英語力	P 9
11. 企業に評価してもらいたいこと	P 10
12. 留学をした感想	P 11

《調査概要》

調査対象：CFN (www.careerforum.net) に登録している【日本人留学生】のうち、卒業時期が2015年5月以降の者 7,469人

調査方法：インターネット調査法

調査期間：2016年2月10日～3月7日

回答者の属性 単位：人

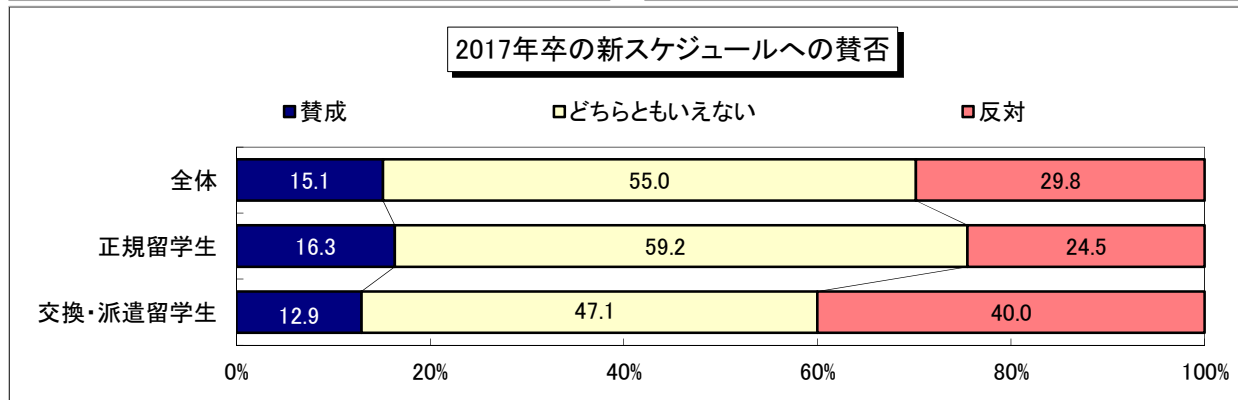
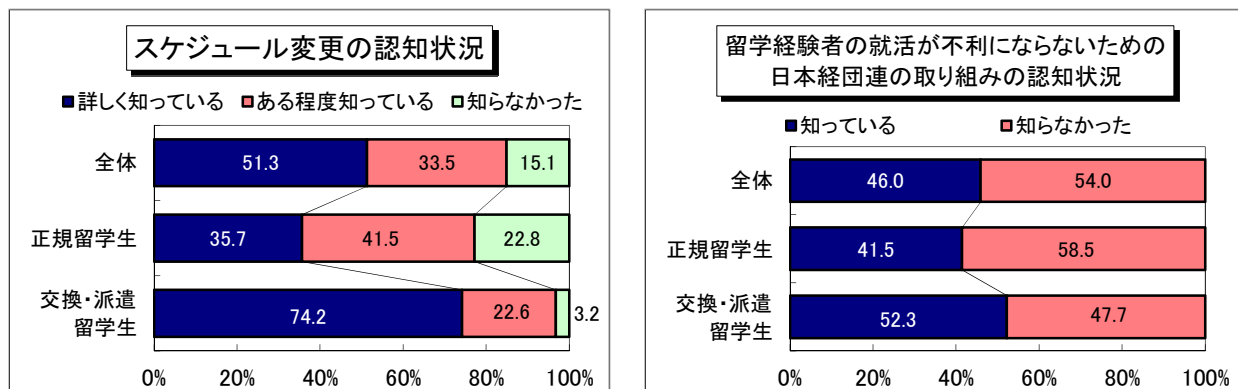
留学形態	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	留学先地域・国	全体
正規留学	294	80	138	32	44	北米	309
交換・派遣留学	155	47	93	7	8	英国	82
語学留学	22	11	11	0	0	その他ヨーロッパ	48
その他	12	4	4	2	2	オセアニア	14
合計	483	142	246	41	54	アジア	26
						その他	4
						合計	483

※国内学生の調査結果は「キャリアス就活 学生モニター調査」より

1. 新スケジュールの認知度と意見

日本国内の採用活動スケジュールが2年連続で変更されることへの認知状況を尋ねた。「詳しく知っている」が51.3%と過半数に達しているが、正規留学生在が3割台（35.7%）なのに対し、交換・派遣留学生在では74.2%と7割を超えている。留学経験者の就活が不利にならないための日本経団連の取り組みについては、全体の46.0%が「知っている」と回答。やはり交換・派遣留学生在のポイントが高く、日本国内の採用活動に対する関心の高さを示す結果となった。

新スケジュールについて賛否を尋ねると、「6月面接開始は8月に比べて早いのでやりやすい。早過ぎもしない」「勉強に集中できて良い」といった歓迎する意見がある一方、「準備期間が短く、留学生在に不利」という懐疑的な意見も見られた。とりわけ交換・派遣留学生在で反対姿勢が強い。



■賛成する理由

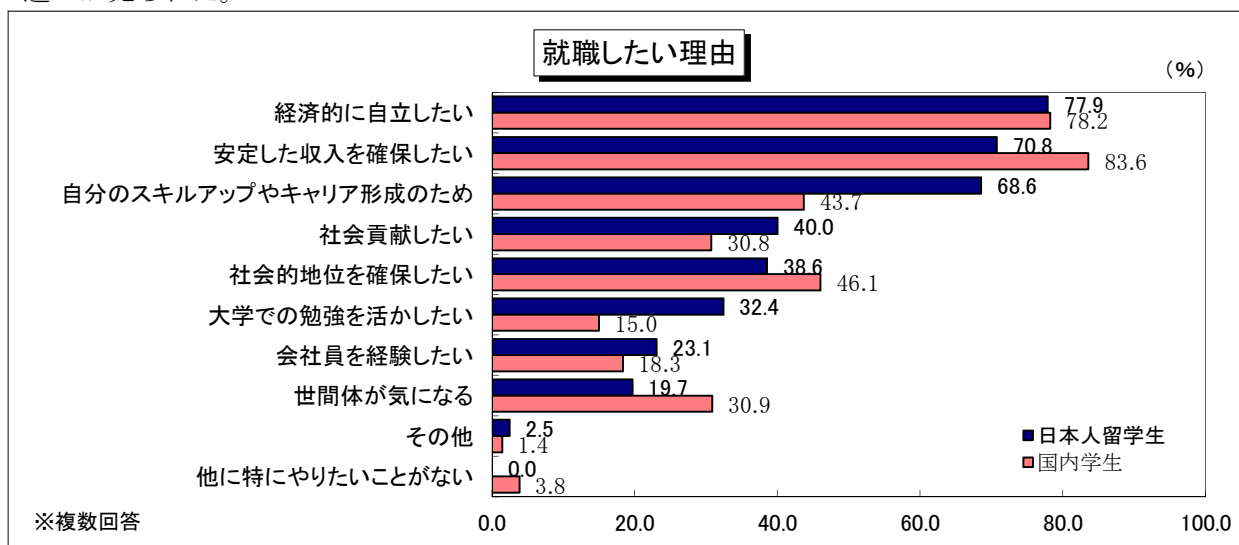
- 去年は8月から選考解禁でしたが、実質8月前から選考は行われていたので、6月に変更されても特に影響はないと思います。 <正規留学>
- 留学から帰っても間に合う時期であり、就職活動の終了の時期もそれほど遅くないので卒論執筆にも専念できそうだから。 <交換・派遣留学>
- 就職活動自体は短い方が良い。 <正規留学>

■反対する理由

- 5月卒業の場合6月の選考解禁には間に合ってもその前の説明会などには参加できないことが多く、説明会に参加していない場合選考が受けられない企業もあるため。 <正規留学>
- 準備期間が短すぎる。大学では4月から6月までにも通常通り講義があるので、交換留学経験者に不利になる。 <交換・派遣留学>
- 留学生在の帰国は6月に集中することを考えると、企業の配慮がない限り圧倒的に不利である。選考解禁日程を現状維持するのであれば、留学生在ルートを用意するのが妥当ではないか考える。 <交換・派遣留学>
- 6月まで授業がある海外大生は、最初から就職活動に参加できないから。 <正規留学>

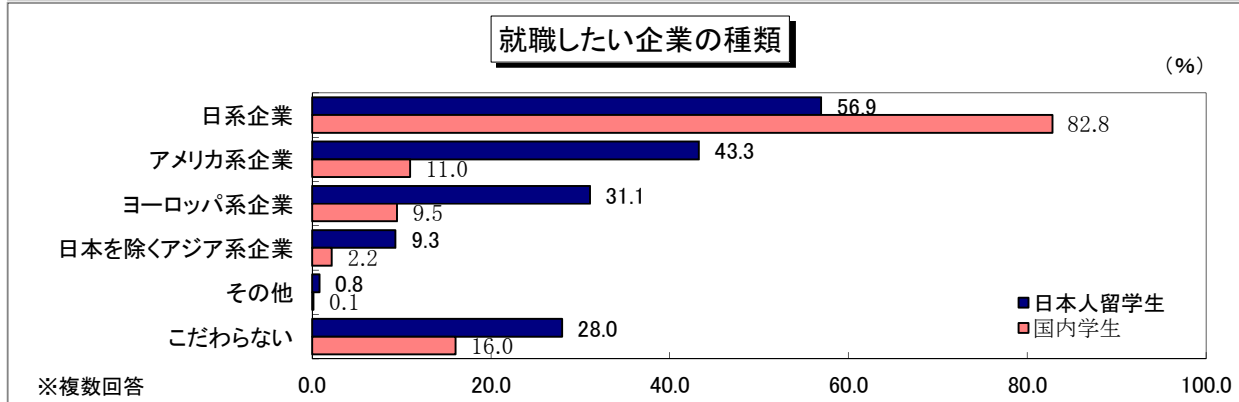
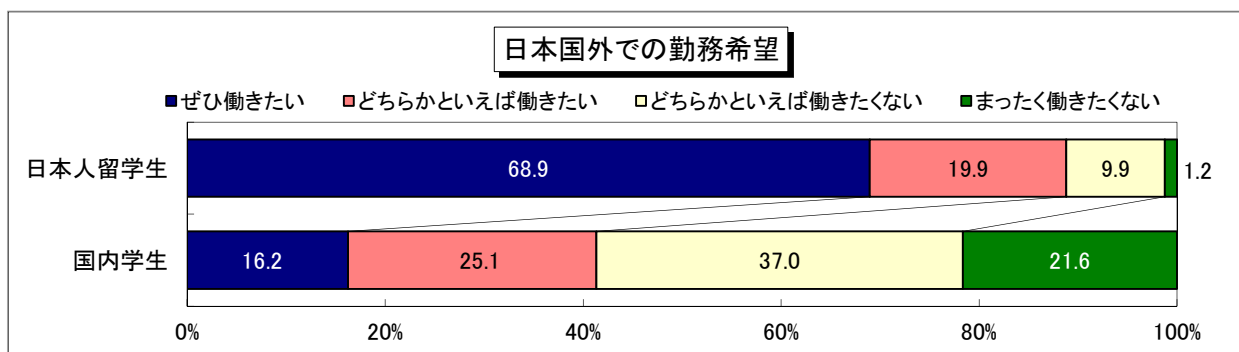
2. 就職したい理由

就職したい理由を尋ね、国内の大学・大学院で学ぶ学生（以下、国内学生）と比較してみた。日本人留学生は「経済的に自立したい」77.9%、「安定した収入を確保したい」70.8%、「自分のスキルアップやキャリア形成のため」68.6%と続いた。これに対し、国内学生は「安定した収入を確保したい」83.6%、「経済的に自立したい」78.2%、「社会的地位を確保したい」46.1%となっている。就職をスキルの獲得の場と考える留学生と企業に社会的な基盤を求める国内学生とで、違いが見られた。



3. 日本国外での勤務希望と就職したい企業の種類

勤務を希望する地域について尋ねた。日本人留学生は日本国外で「ぜひ働きたい」68.9%、「どちらかといえば働きたい」19.9%と、海外での勤務を希望する学生が9割に迫る。国内学生はそれぞれ16.2%、25.1%で、海外での勤務を希望する比率は4割にとどまる。就職したい企業の本社地域については、アメリカ、ヨーロッパ系企業への関心度は日本人留学生が圧倒的に高い。

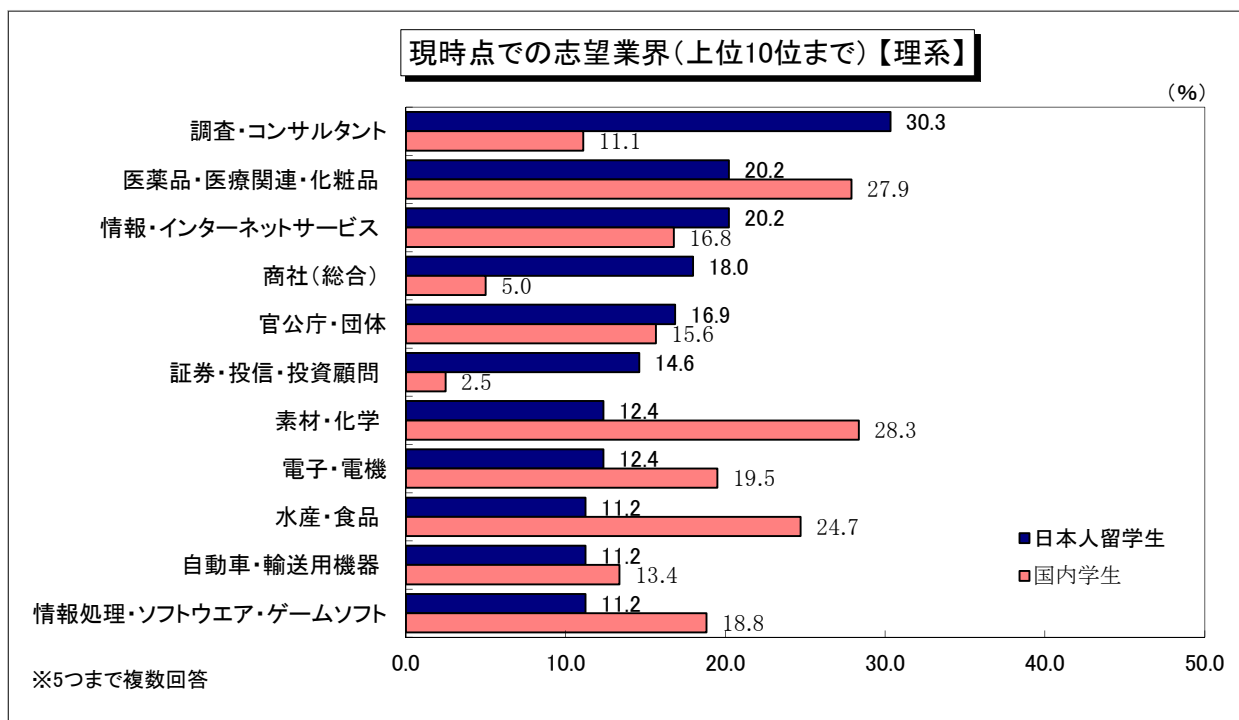
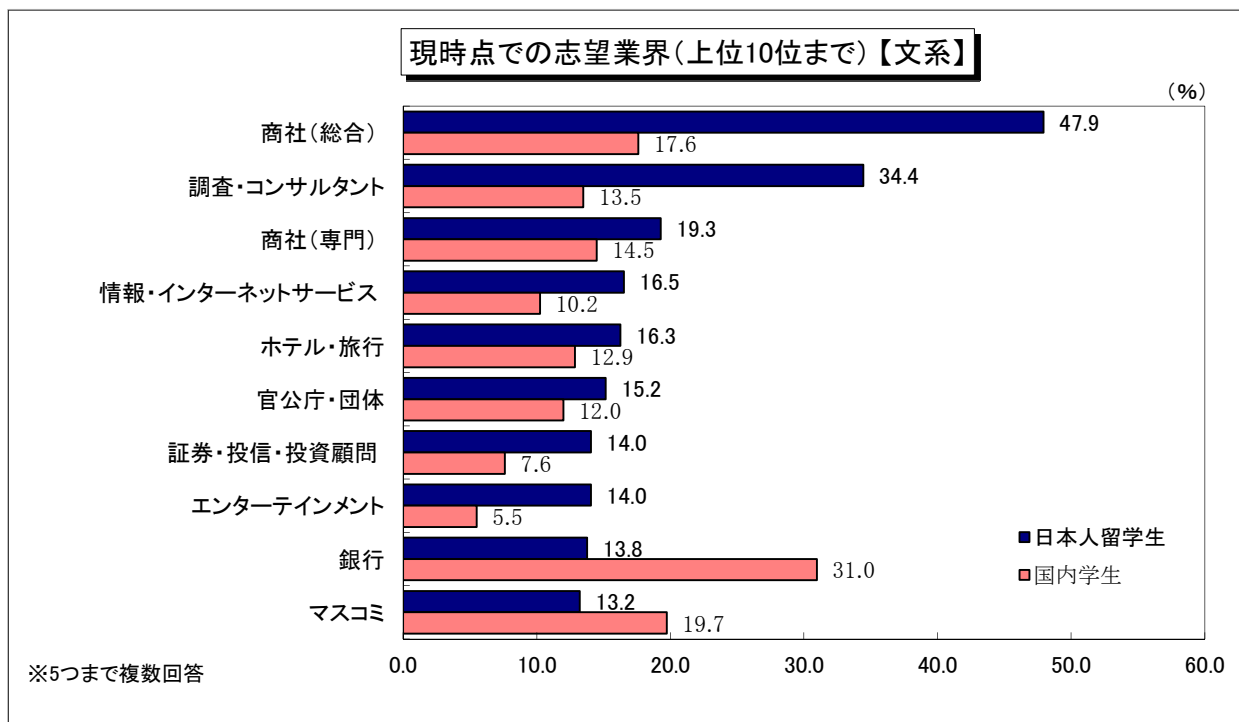


4. 志望業界

志望する業界について、40業界から5つまで選んでもらった。まず文系を見ると、日本人留学生は「商社(総合)」47.9%が最も多く、「調査・コンサルタント」34.4%、「商社(専門)」19.3%と続いた。国内学生は「銀行」31.0%、「マスコミ」19.7%の順。

理系を見ると、日本人留学生は、「調査・コンサルタント」30.3%、「医薬品」「情報」がともに20.2%と続いており、国内学生は「素材・化学」28.3%、「医薬品」27.9%、「水産・食品」24.7%となった。

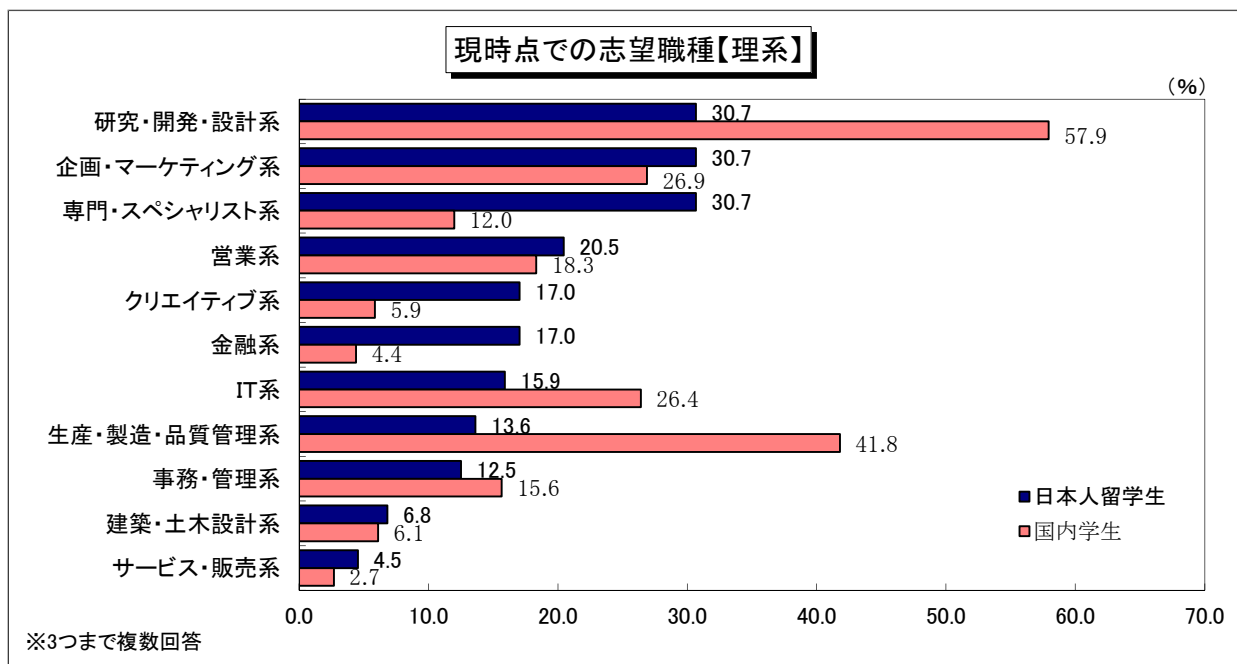
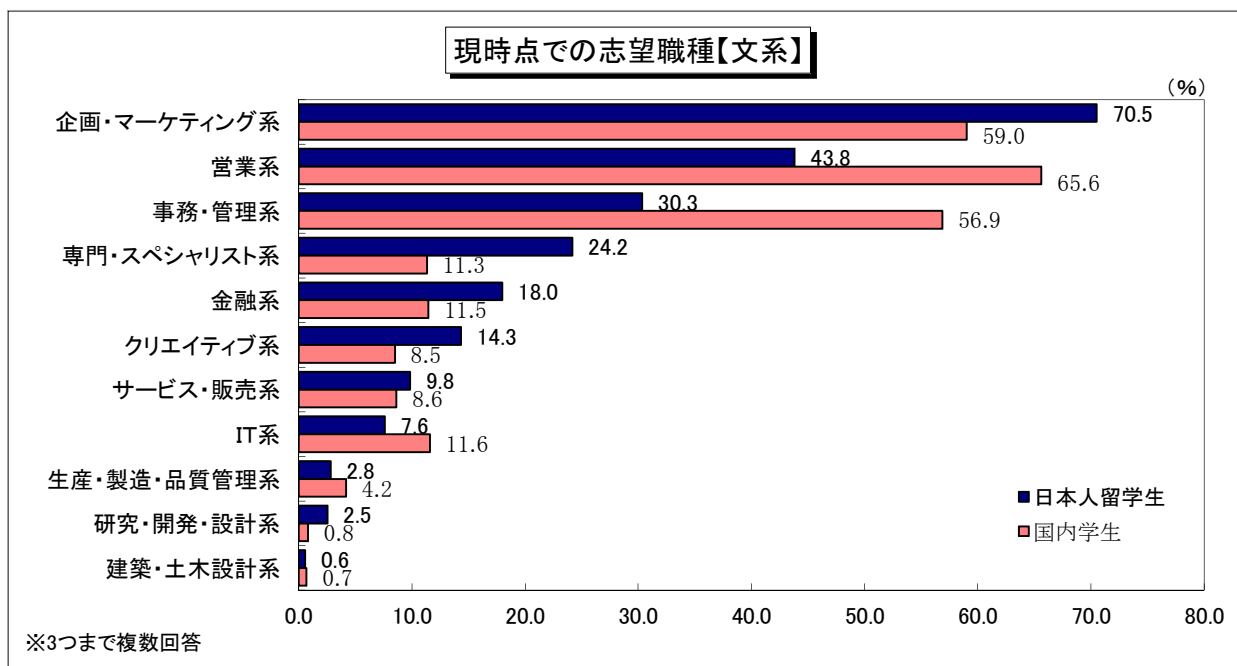
日本人留学生の場合、多国籍にビジネスを展開している業界へ関心が集まる結果になった。



5. 志望職種

志望する職種について、11職種から3つまで選んでもらった。文系では日本人留学生、国内学生とで共通して「企画系」が多いが、続く項目に差が出ている。日本人留学生は「専門・スペシャリスト系」「金融系」「クリエイティブ系」など分散しているが、国内学生は「営業系」「事務・管理系」に集中している。これは日本企業の総合職一括採用と海外企業の専門職採用の考え方の違いが、それぞれの学生に浸透していることが要因と考えられる。

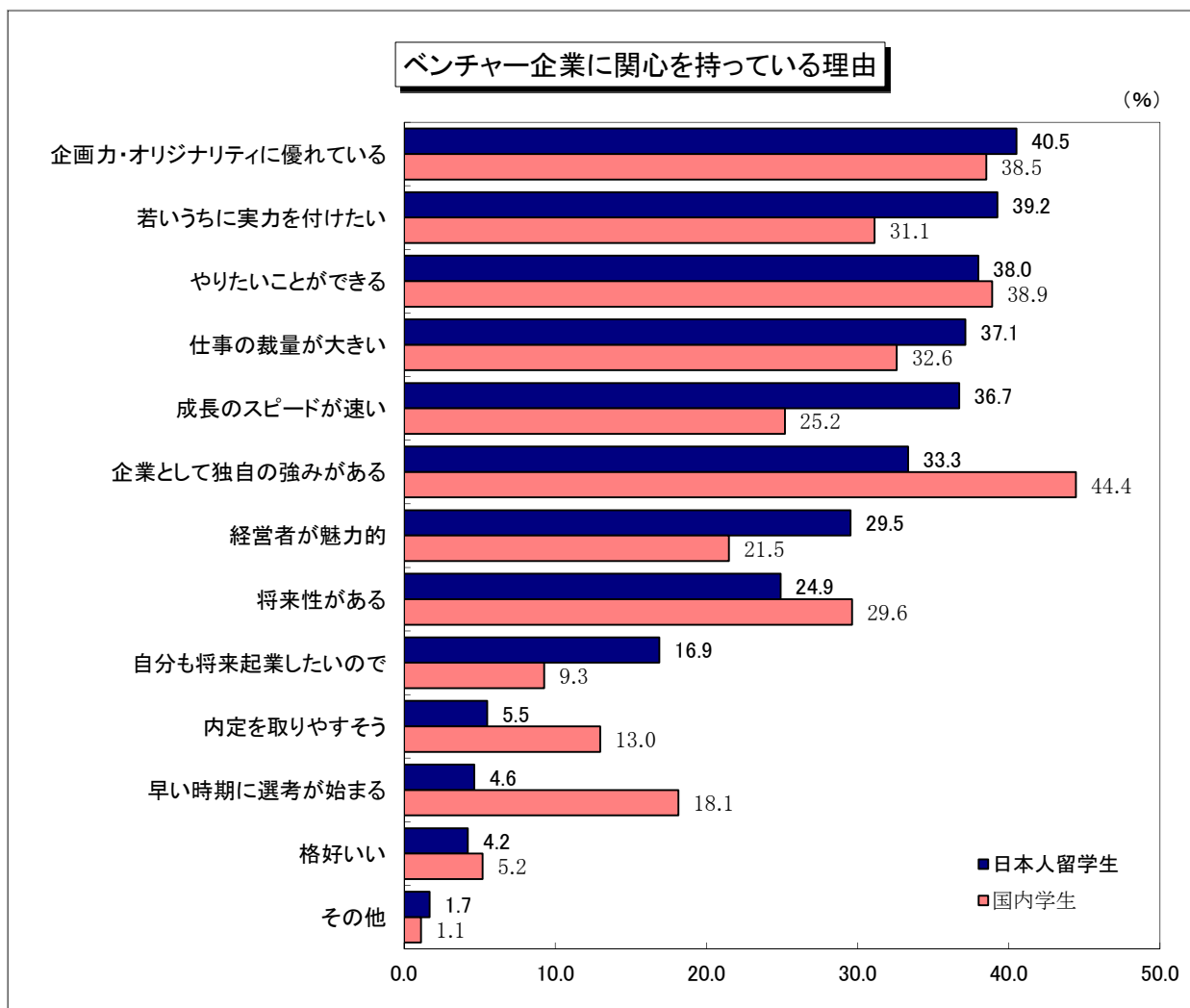
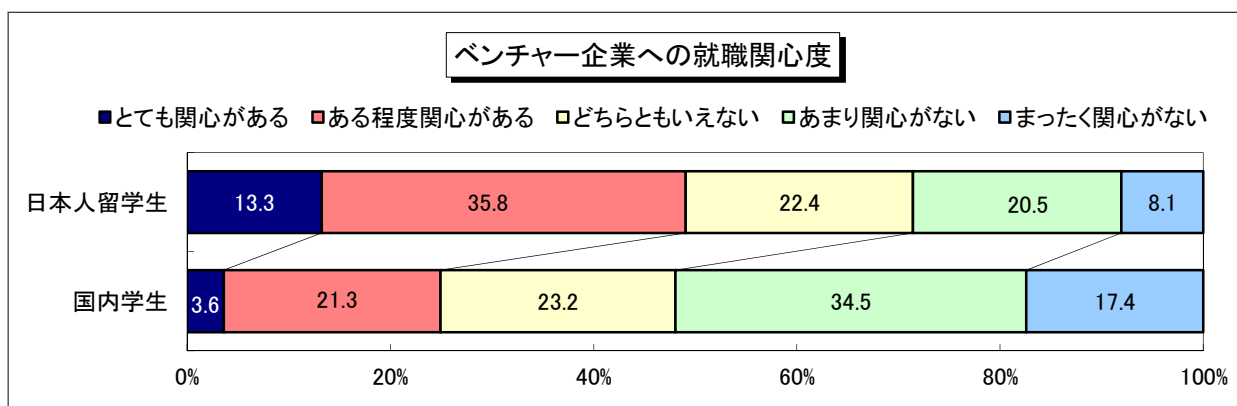
理系では、国内学生が「研究系」「生産系」「IT系」などいわゆる技術系職種に志望が集まっているのに対し、日本人留学生では、これらの職種への志望は国内学生の半数程度に留まる。その一方、「企画系」「専門・スペシャリスト系」など各職種に分散する傾向にあり、理系も文系と同様に自分の専攻や志望によって、職種を自分なりに絞り込んでいるようだ。



6. ベンチャー企業への関心

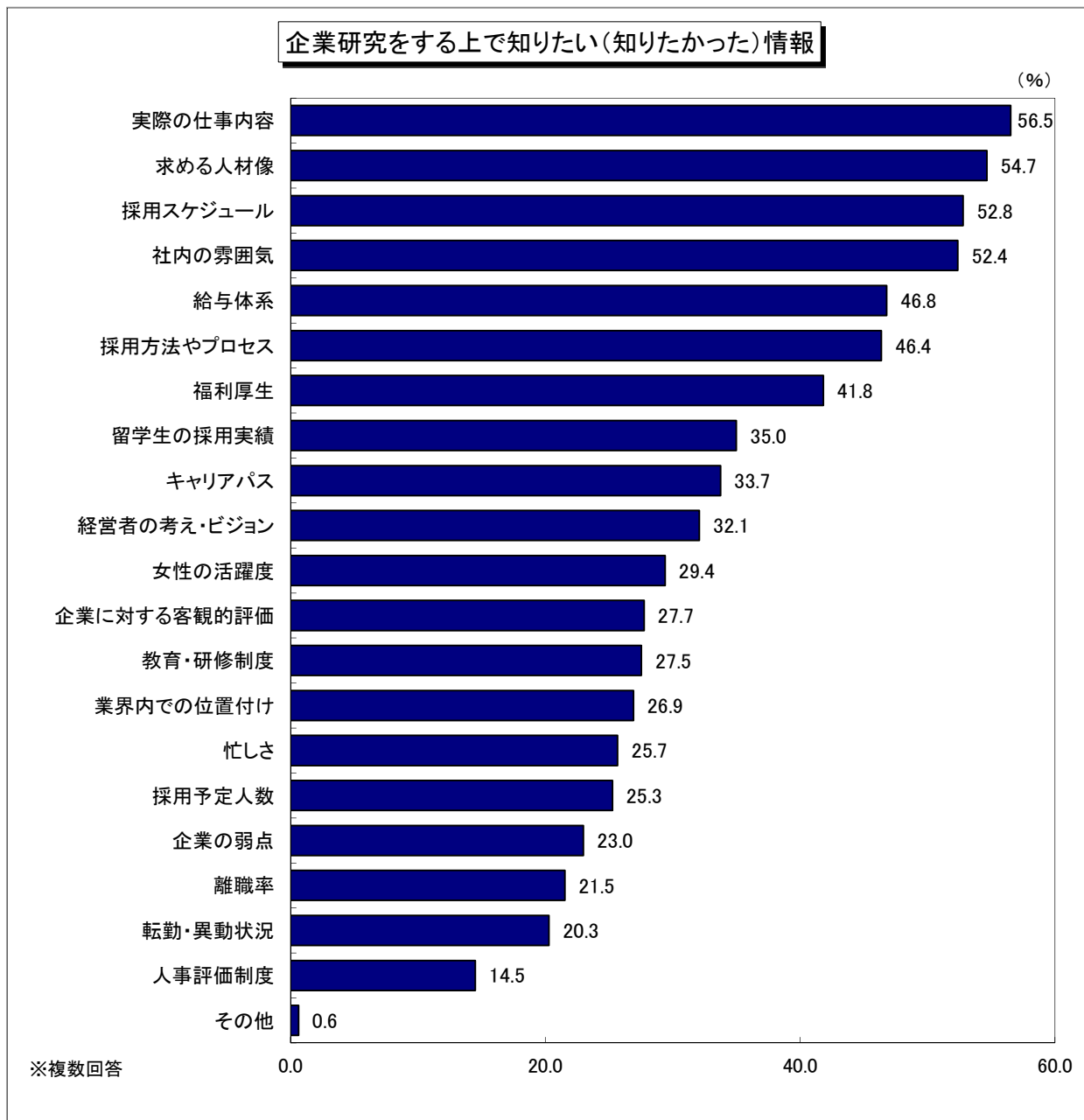
日本人留学生と国内学生の双方にベンチャー企業への就職意識を聞いた。日本人留学生は「とても関心がある」が13.3%、「ある程度関心がある」が35.8%で、約半数(49.1%)がベンチャー企業への就職に関心があると回答した。就職先として当たり前に捉えていることがうかがえる。これに対し、国内学生の回答はそれぞれ3.6%、21.3%と低く、関心のある層は限られる。

日本人留学生がベンチャー企業に関心を持っている理由としては、「企画力・オリジナリティに優れている」40.5%、「若いうちに実力を付けたい」39.2%、「やりたいことができる」38.0%といった項目をあげており、ベンチャー企業のスピードの部分に注目しているようだ。



7. 企業研究をする上で知りたい情報

企業研究をする上で知りたい（知りたかった）情報について聞いた。「実際の仕事内容」が最も多く56.5%で、「求める人材像」が54.7%、「採用スケジュール」が52.8%、「社内の雰囲気」が52.4%で続いた。就職活動で時間的、地理的制約が大きい留学生にとって、「採用スケジュール」は詳しく知りたい情報として上位に上がってくるようだ。

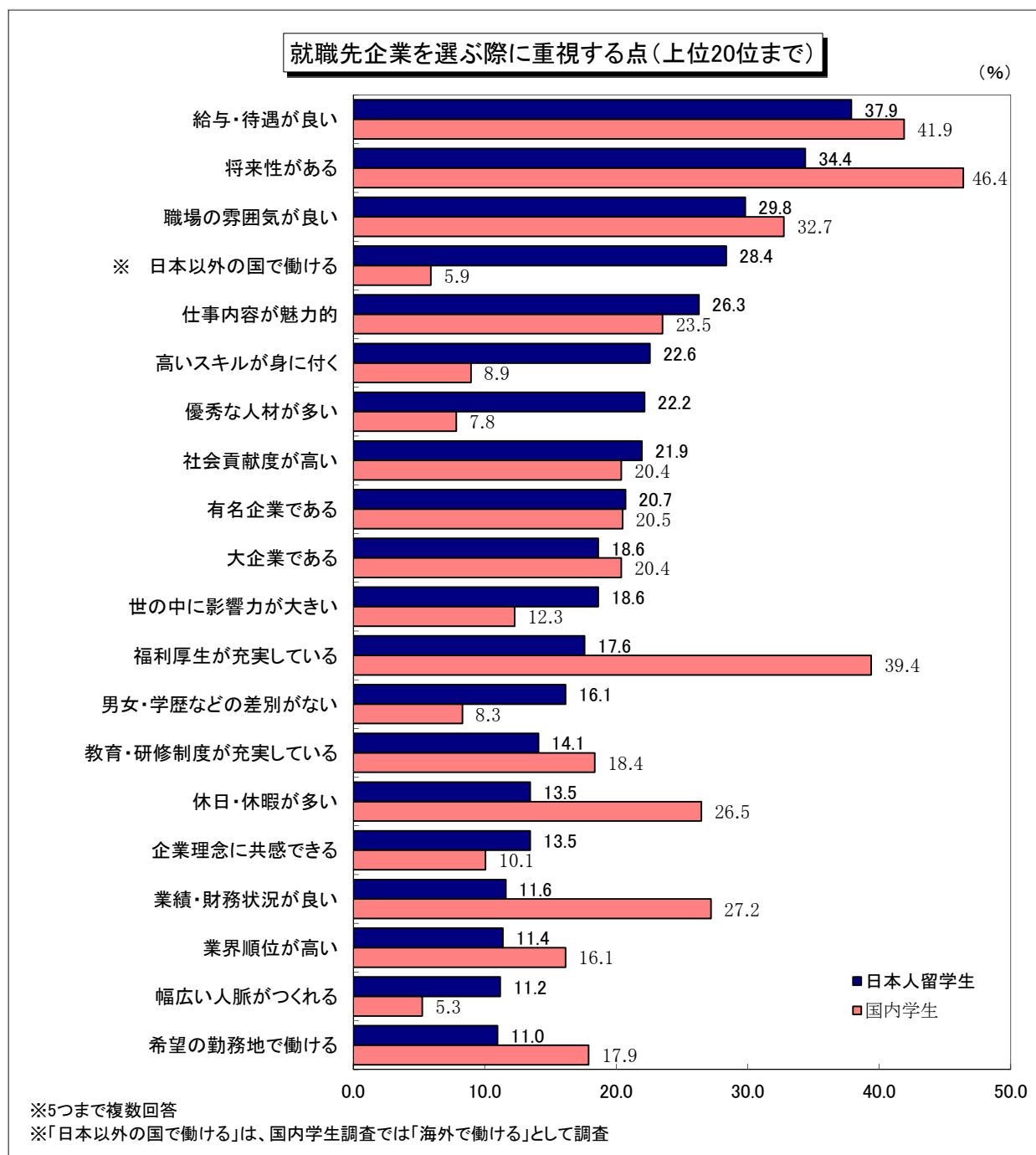


8. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先として企業を選ぶ際に重視する点を比較した。国内学生は「将来性」「給与・待遇」「福利厚生」「職場の雰囲気」が上位に来ており、それらに「有名企業」「社会貢献度」「大企業」などが続いている。売り手市場が定着したことで、待遇、働きやすさ、安定性といった点を比較して、企業を選んでいるのだろう。

一方の日本人留学生は「給与・待遇」「将来性」「職場の雰囲気」が上位に並ぶ点では国内学生と同様だが、「海外で働ける」「スキルが身に付く」「優秀な人材と働く」が続く点が特徴的だ。待遇だけではなく、働く環境に強い関心を示していることが分かる。

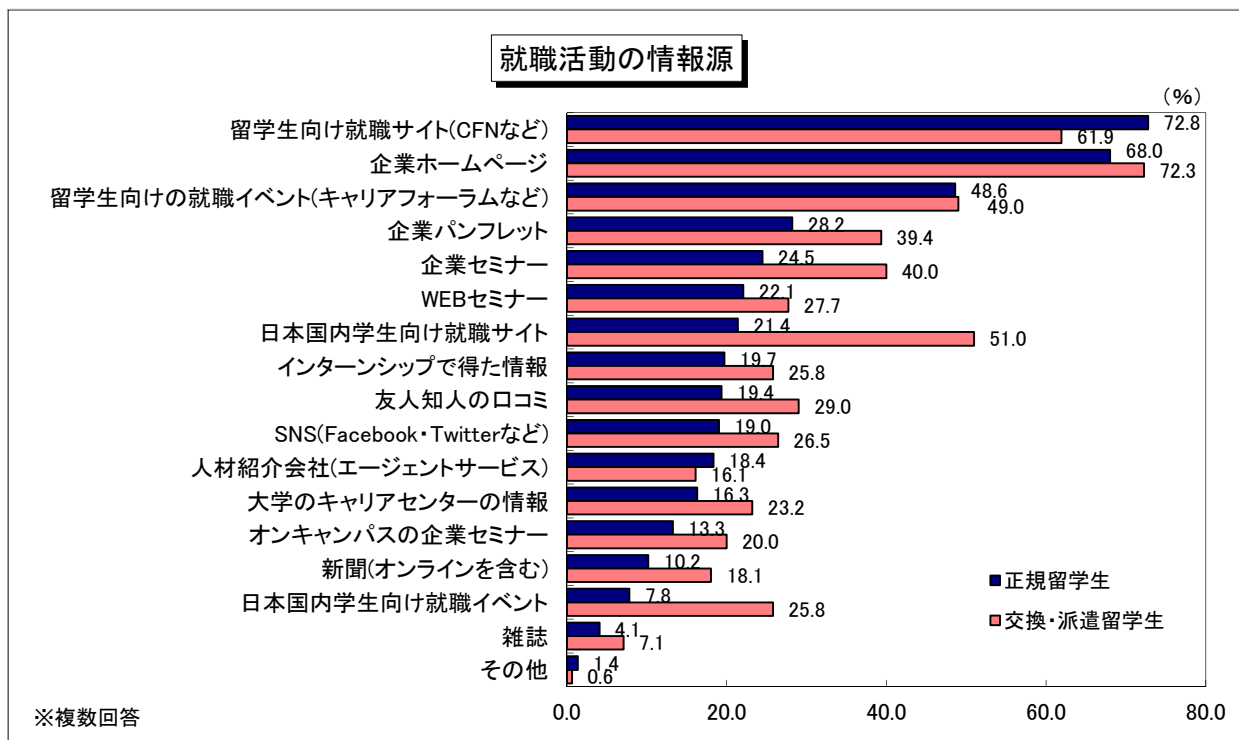
全体的に国内学生が会社軸で見ており、「就社」の側面が強いのに対し、留学生はスキルの獲得など仕事軸で企業を見ている点が特徴的だ。



9. 企業研究の情報源

就職活動の情報源を正規留学生と交換・派遣留学生とに分けて調べてみた。正規留学生は「留学生向け就職サイト」72.8%、「企業ホームページ」68.0%、「留学生向けイベント」48.6%の順となったが、交換・派遣留学生は「企業ホームページ」72.3%、「留学生向け就職サイト」61.9%、「国内学生向け就職サイト」51.0%となった。

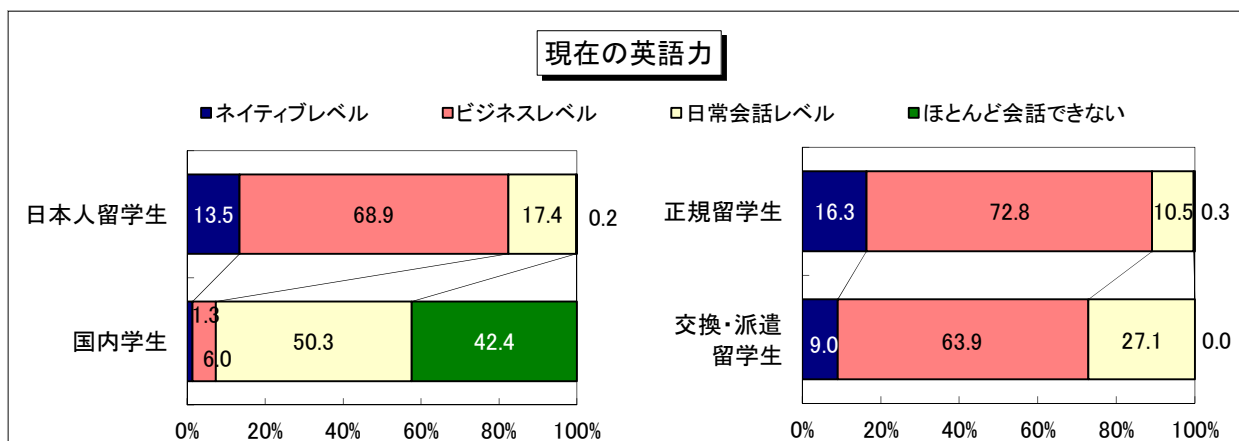
正規留学生の多くは、インターネットと留学生向け就職イベントが有力な情報源となっている様子がわかる。



10. 現在の英語力

海外留学生の現在の英語力について聞いた。日本人留学生では英語力が「ネイティブレベル」との回答が13.5%、「ビジネスレベル」が68.9%とビジネスで英語を使うことができる学生が8割を超えている(82.4%)。国内学生の英語力は「ネイティブレベル」が1.3%、「ビジネスレベル」が6.0%で、ビジネスで英語を使える学生はわずか7.3%に過ぎず、大きな差が出た。

また、留学形態別に比較すると、正規留学生の9割近く(89.1%)がビジネスレベル以上と回答しており、海外に長く生活している分、英語力の高さが際立っている。

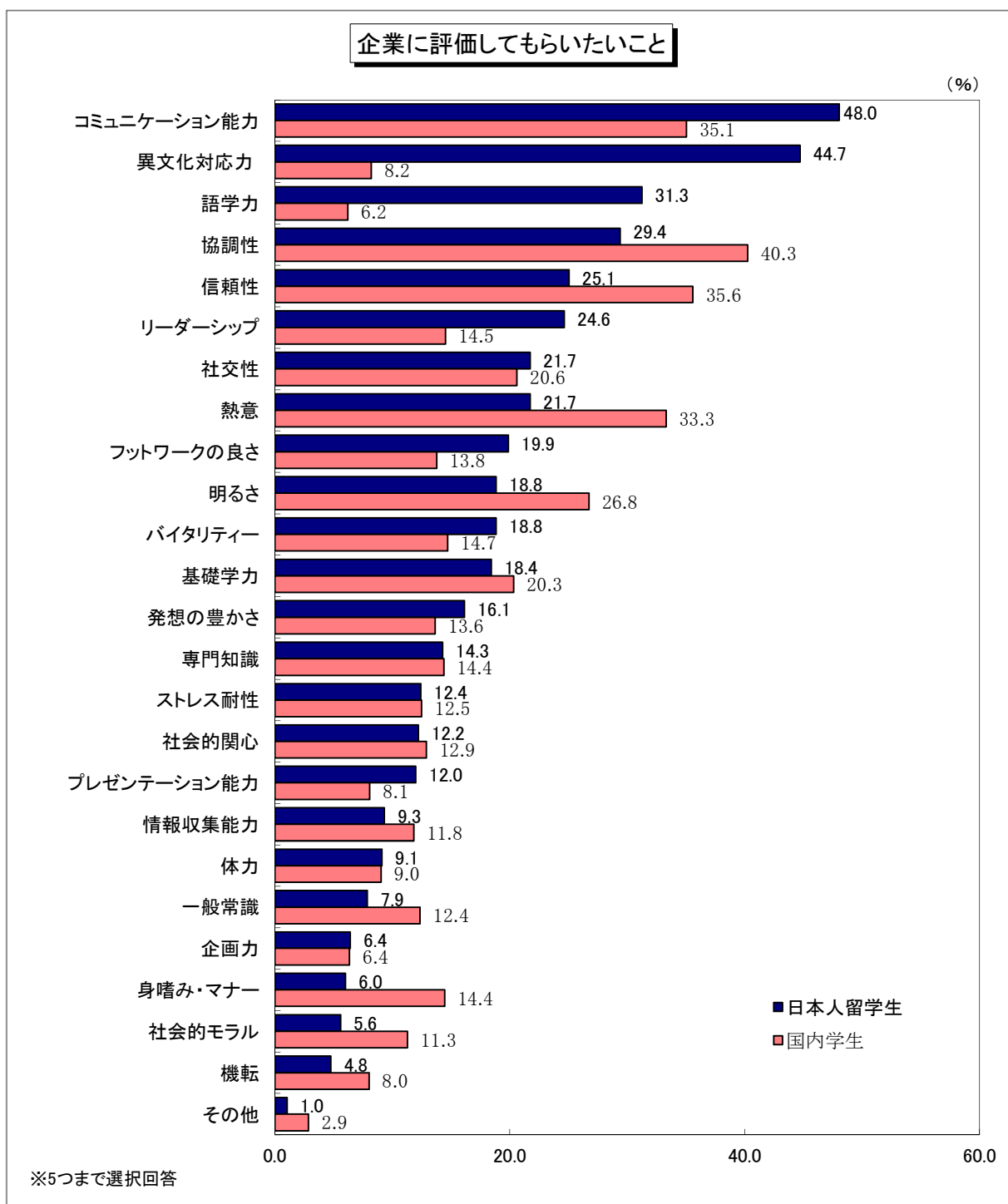


11. 企業に評価してもらいたいこと

選考にあたって企業に評価してもらいたいことを聞いた。日本人留学生在が評価してもらいたいこととしては「コミュニケーション能力」48.0%、「異文化対応力」44.7%、「語学力」31.3%と、いずれも海外での留学・生活で得られるであろう要素が上位にあがった。

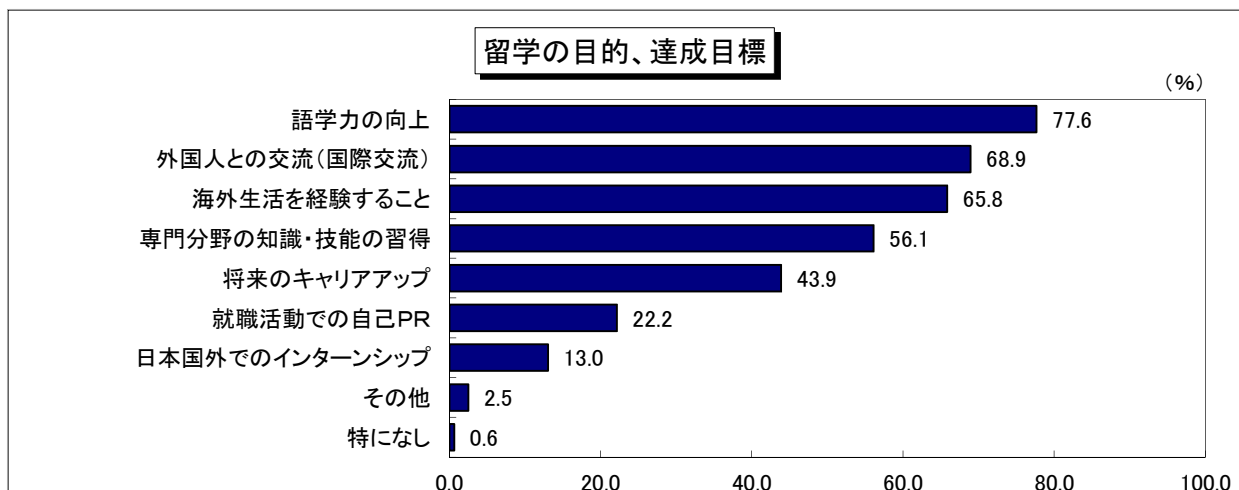
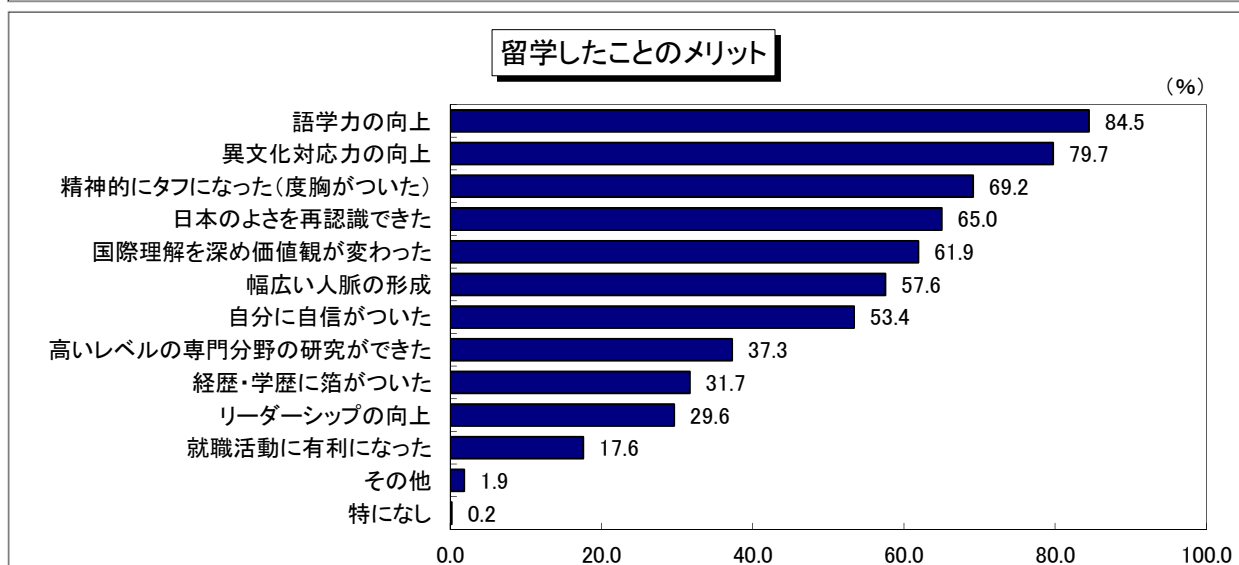
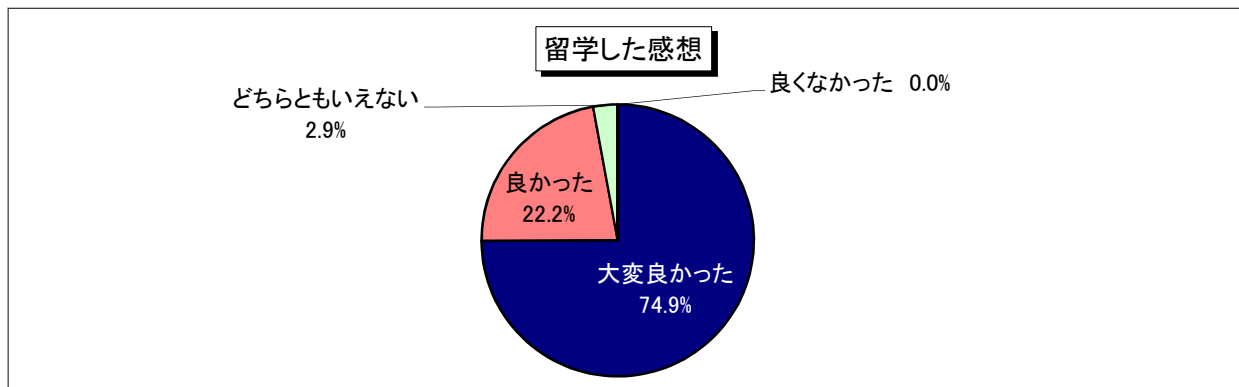
国内学生が評価してもらいたいこととしては、「協調性」「信頼性」「コミュニケーション能力」が上位に来ており、組織のなかで円滑に業務を遂行できる能力をアピールしたいようだ。

「異文化対応力」以外で両者の乖離が大きい項目に「熱意」と「協調性」があげられるが、能力を正當に評価してもらいたいと考える留學生と、やる気などのマインドの部分も加点してもらいたい国内学生とで、差が感じられる結果となった。



12. 留学をした感想

留学全般についての感想を聞いた。「大変良かった」が74.9%、「良かった」が22.2%と、ほとんどの留学生が留学経験に対して、前向きに評価をしていた。留学したことの成果としては、「語学力の向上」84.5%、「異文化対応力の向上」79.7%、「精神的にタフになった」69.2%と、留学しなければ得られない経験が自身の成長につながったと捉えているようだ。留学で得たこと、感想について個別にコメントを求めたところ、「異なるバックグラウンドを持つ人と出会えたことで、自分の価値観、世界観を広げられた」「海外に行くことで日本文化の素晴らしさに気づかされた」などの答えがあった。



■留学によるキャリア観への影響

- チャレンジできる環境に身を置きたいと思うようになった。
- 海外で活躍する日本人や、異なったバックグラウンドを持つ人、日本で住んでいたら会うことのないような人と出会えたことで、自分の価値観、世界観を広げられた。
- 専門性の高い学部で学ぶことができたので、企業選択に必要な知識が増えたように思えます。
- 実力主義と競争社会のアメリカで、自発的に挑戦していく事の重要性を学びました。
- 世界は広く、日本という国がまだまだ可能性にあふれた国だということに気付いた。この日本のポテンシャルを世界に広げられるような仕事に就きたいと思った。
- 国際社会の中で通用する人材に必要な一般知識や常識、マナーといった点は非常に勉強になっている。
- これまで考えたことがなかった就職先が視野に入った。
- 大企業だけが就職先としての希望ではなくなった。
- 日本で働きたい、日本の良さを世界に発信していきたい、と強く思うことができた。
- 客観的に日本がどのように見られているのかということを経験でき、日本の基幹産業である製造業に進みたいと強く思うようになった。
- ベンチャー志向が強くなった。日系企業で働きたい気持ちが強くなった。
- 海外で暮らしているなかで、日本を外からみる機会が増えたことによって日本で就職したいという思いが強くなった。

■留学をして困ったこと

- 円安で授業料が劇的に上がったこと。
- 留学して最初の2年は授業レベルに困る事はなかったが、卒業が近づくにつれてどんどん授業のレベルが難しくなり困っている。毎日勉強づけで、なんとか良い成績保っている。
- 毎日深夜まで図書館で勉強していました、二日連続徹夜したこともありました。
- 授業のスピードがかなり早く、日本の授業のように予習もせずのほほんと過ごしていると痛い目にあった。2学期目からは気持ちを入れ替え、大満足のセメスターとなった。
- 日本人のほとんどいない大学に所属しているので、就職に関する情報が得られないこと。
- 日本で就職を考える学生にとって留学先では就活の情報が限られる上、セミナーや説明会、インターンなどの参加が難しいこと。
- 国内で就職活動するために、正式な帰国前に一時帰国をしなければなくなった。
- 価値観が違うので、乗り越えるまで時間がかかった。
- フランス留学のため、銀行口座開設や携帯電話の購入が大変だった。
- インターンシップでの営業。英語＋金融の専門用語を顧客にスムーズに話さなければならないため、とても苦労した。
- 自分から動き出さなければ、誰も助けてくれない。助けを求めることの難しさ、大切さを学びました。
- アメリカは何でも主張しないと自分の意思が伝わらない国ですので、自分からガツガツ進むようになりました。